

IOT開発実績についてのご紹介 (次世代コネクテッドカー基盤)

株式会社エイエイエスティ東京

はじめに

「Connected(IoT化)」「Autonomous(自動運転)」「Shared & Services(カーシェアリング)」「Electric(電気自動車)」・・・CASE時代の技術革新により、自動車業界はまさに100年に一度の大変革期に突入しています。技術開発競争が激化し、国内外においてめまぐるしい進化を遂げる中、実はその発展に弊社が関わっていることを知る人は少ないでしょう。手がけるのはコネクテッドカーの基盤である大量データ提供サービスの開発。本稿では、エイエイエスティ東京の開発実績である大量データ提供サービスについてご紹介します。

目次

1. 案件概要
2. 概要図
3. コネクテッドカー基盤全体システム構成
4. 利用技術構成(アーキテクチャ)
5. マイクロサービスアーキテクチャ
6. コネクテッドカーにまつわる将来構想(某自動車メーカー構想より抜粋)

1. 案件概要

某自動車メーカーのコネクティッド基盤サービスの開発支援

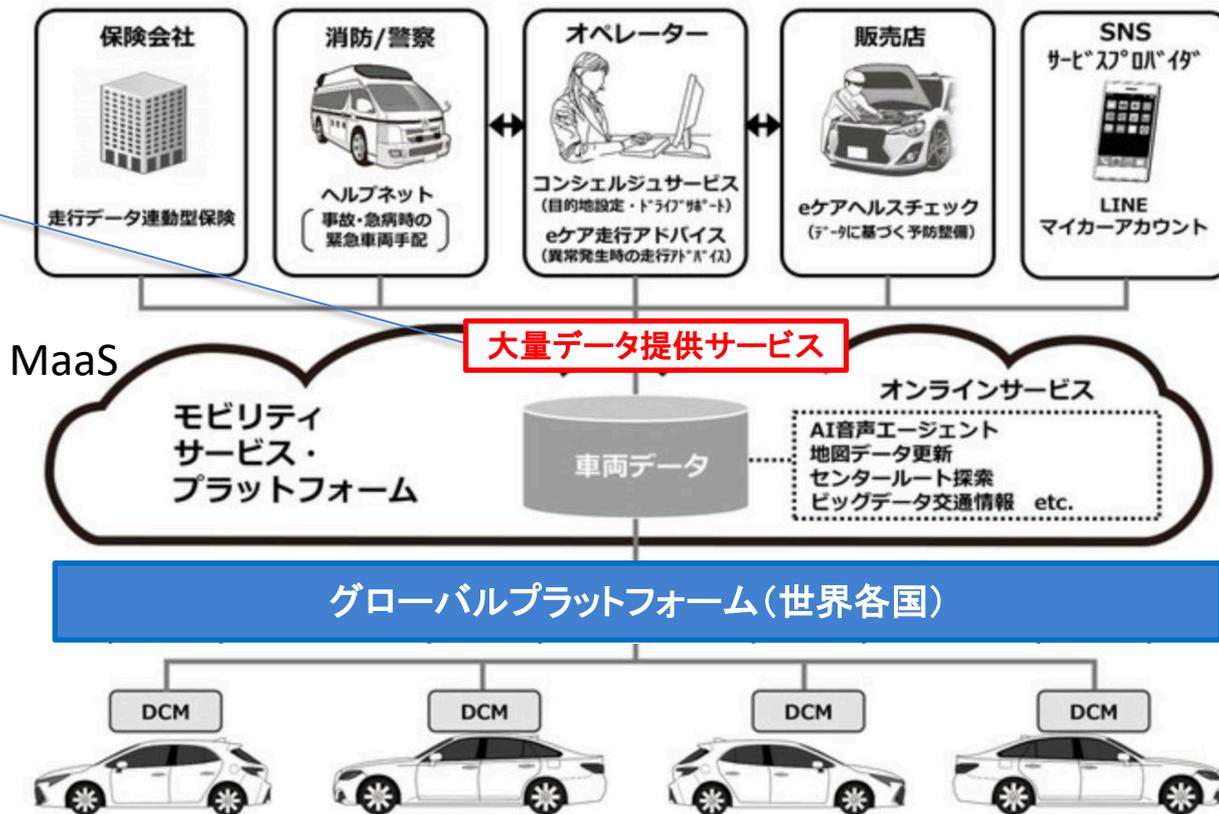
概要	利用技術	期間	体制/役割
<p>・コネクテッドカー(自動車)の*DCMから送信される大量データの解析及び、その大量のデータ提供を行います。</p> <p>・このデータ提供サービスを各国やメーカー仕様の差異を吸収して、一元化開発。</p>	<p>OS: Windows10(開発) AWS(運用)</p> <p>言語: JAVA Node.js</p> <p>ミドルウェア: AWS-Lambda Spring Boot AWS-S3 MongoDB(NoSQL)</p>	2020.4～	<p>自動車メーカー 大手Sier AAST東京 <弊社役割></p> <ul style="list-style-type: none">・仕様調整(英語)・データ解析・API作成・データ提供

*DCM(データ・コミュニケーション・モジュール)とは、クルマ専用の通信機で365日24時間サーバと通信する。

2. 概要図

DCMとコネクテッドサービスの関係

つまり、
このバックエンドの
機能の開発(API開発)
→ IoTサービス提供



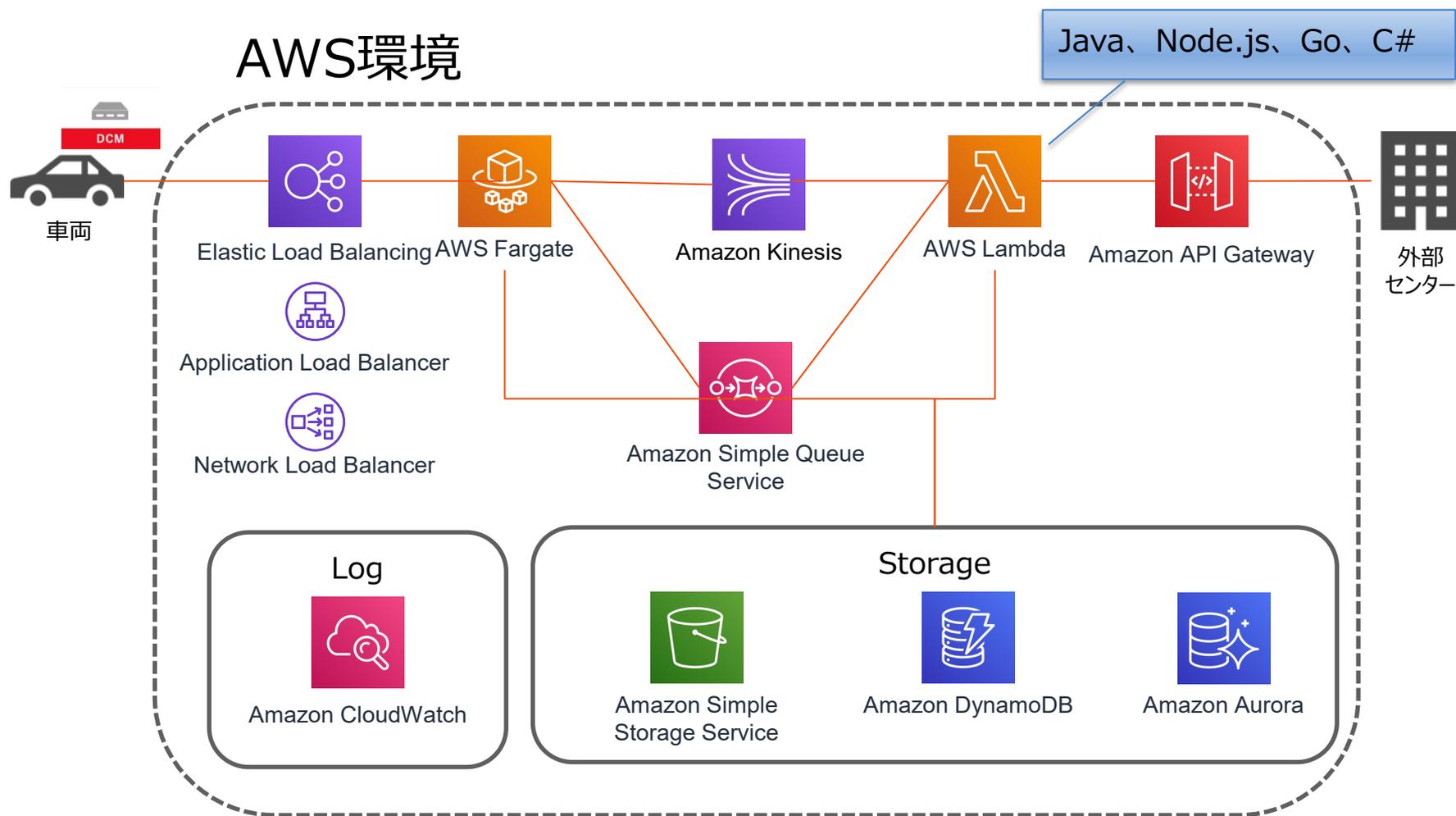
弊社役割

- ・仕様調整
- ・データ解析
- ・API作成
- ・データ提供

DCMとクラウドを連携するトヨタのデータエコシステム 出所：TOYOTA

3. 利用技術構成(マイクロサービス)

コネクティッドカー基盤の基本アーキテクチャ: AWS環境を採用しています。



エイエイエスティ東京は長年にわたるシステム開発実績とAI、IOT、ビッグデータなど最新テクノロジーのノウハウをもとにコネクテッドカー基盤の開発など革新的な開発技術のご提供・支援を進めてまいります。

※ 本文中に記載の会社名、製品名、ロゴ等は、各会社の商標もしくは登録商標です。